

1. 調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 学校ごとの指標

○H27年度・・・A問題の全国比－4P以内 B問題の全国比－7P以内

3. 指標にむけての取組

① 授業充実

- 「めあて・見通し・一人学び・学び合い・まとめ」の学習過程及びノート指導の徹底を図る。
- 落ち着いた雰囲気の中で「分かる・できる喜び」を味わえる授業づくりを行う。

② 課題克服プリントの実施

- 国語科、算数科とも基礎・基本のA問題を朝活動の時間に、そして活用のB問題は補充学習の時間を設定し、専科教員との複数体制で指導にあたる。

③ 漢字コンクール、漢字検定の取組

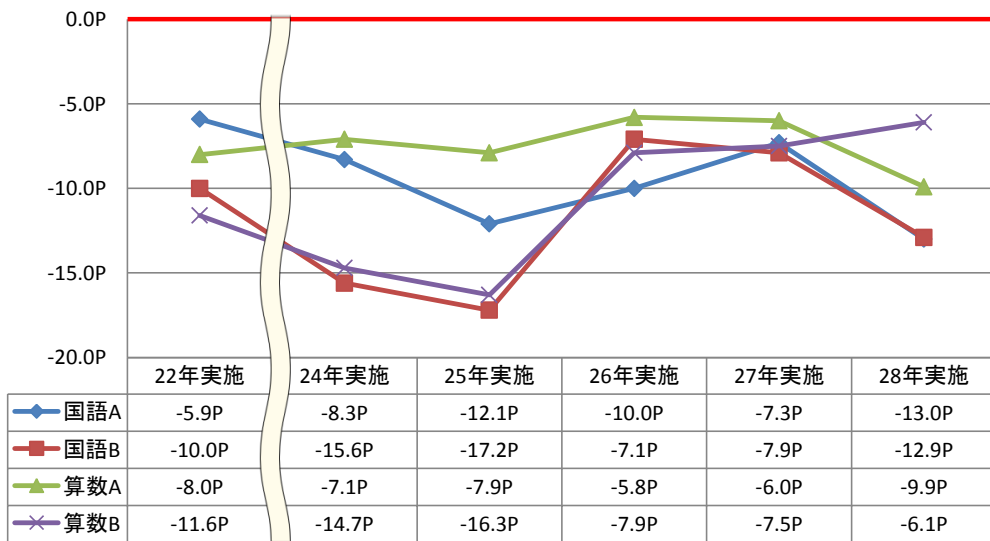
- 学期末に漢字コンクール(クラス単位)、年度末に漢字検定(個人)を行うことで意欲化を図る。

4. 調査結果

本年度の結果 (平均正答率に対して)

教科名	国語A	国語B	算数A	算数B
本校(A)	59.9	44.9	67.7	41.1
嘉麻市(B)	65.3	51.6	72.8	41.9
(A)－(B)	-5.4	-6.7	-5.1	-0.8
福岡県(C)	71.7	57.8	77.8	47.3
(A)－(C)	-11.8	-12.9	-10.1	-6.2
全国(D)	72.9	57.8	77.6	47.2
(A)－(D)	-13	-12.9	-9.9	-6.1

全国平均との差異



5. 各学校における分析

○国語Aが全国比－13.0P、国語Bが－12.9Pと、算数Aの－9.9P算数Bの－6.1Pに比べて、非常に格差が大きい。これは、漢字やローマ字など、基礎的な習得が不十分であることとB問題で必要とされている、問題の意味を読み取る力(読解力)や読み取ったことをもとに考える力(思考力)、そして考えたことを文章でまとめる力(記述力・表現力)が十分に身につけていないことが大きな要因である。

6. 各学校における今後の取組

- ① 安心して学び合える学級(学校)づくり
○「学校に行くのが楽しい」と思えるような居心地の良い集団づくりを行うことで「学びの環境」を創り出す。
- ② 「書く活動」を中心に据えた質の高い授業づくり
○一時間の授業の中に「一人学び」(自分の考えを持たせるための「書く活動」を取りいれながら)や「学び合い」(お互いの考えを表現しあう)を充実させることで「思考力」「表現力」を身に付けさせる。
- ③ 音読・読書活動の推進
○「読解力」を高めるためには、文字、文章を読む経験値を増やすことが必要である。家庭学習で「音読」を課したり、図書室の利用を増やしたり、教室内で様々な時間を使って隙間読書をさせたりする。
- ④ 基礎・基本の徹底
○朝学習の時間や補充の時間に、課題克服プリントを使って、専科教員による複数体制での個別指導を行う。
○漢字コンクールや漢字検定の取組を充実させることで、漢字力を高める。

7 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
 - ・効果のあった授業モデルを提示する。
 - ・ユニバーサルデザインの考え方に基づく実践等の情報提供を行う。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
 - ・「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、「家庭学習のすすめ」を児童・生徒の全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。